

Equality

—— 誰もが平等の権利を持つ社会へ ——

98号

ものがたりから読みとる世界

文京区男女平等センター

エス ディー ジー ズ SDGs

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



エスディーゼー

SDGsという言葉聞いたことがありますか？ Sustainable Development Goals = 持続可能な開発目標 「誰も置き去りにしない」世界を作る事、SDGsの掲げる理念です。

2030年までに、先進国も新興国も途上国も、国も企業もNPOも個人も、あらゆる垣根を超えて協力し、より良い未来を作ろうと2015年9月に国連で決まった17個の目標です。

「男女平等」は、このSDGsのゴール目標のひとつ、「5. ジェンダー平等を実現しよう」と合致しています。

今回は、SDGsからの視点で、ものがたりからわかりやすく読みとることができるテーマについて紹介します。

「未来を変える目標 SDGsアイデアブック」はSDGsが掲げる目標をわかりやすく説明しています。国連、企業、NPO、教育者、専門家、クリエイターなどジャンルを超えた多くの人たちが作り上げた楽しく学べる内容の本です。

目標ごとに実例があり、カラー写真で紹介されていて面白く読み進めることができ、17の目標が相互に関連している事もわかりやすく書かれています。

「SDGsを読み解く視点」というコラムもあり、SDGsを一層詳しい内容で説明しています。

SDGsを楽しく理解するのにおすすめの一冊です。



『未来を変える目標 SDGsアイデアブック』

THINK THE EARTH著

紀伊國屋書店



『未来のためのSDGs 2 「豊かさ」に関するゴール』

国谷裕子監修 文溪社

紛争によって家を失ったり食べ物が手に入らない国もあり、世界中で様々な不平等が起こっています。年齢や性別、人種に関係なく労働に見合ったお給料は貰えているのか？視力障害や車椅子生活などで日常生活に不自由はないのか？国によって同じ仕事をしても不自由なく暮らしているかもしれませんが、物価やお金の価値などの違いで夢を叶える為の時間や労力に差が出ています。解決は難しくても興味を持つことで接し方や考え方が変わり少しずつ世の中が平和で平等に暮らせることができると思います。

『未来のためのSDGs 4 「平和」と「パートナーシップ」に関するゴール』

国谷裕子監修 文溪社

SDGsの大きな目標（ゴール）の一つが「平和と公正をすべての人に」です。世界には、独裁者がいる国や、軍が政治をしようとする国がまだいくつもあります。そんな国では、国民が自由な意見をいうことが許されず、暴力による弾圧で命を落とす人がいたり、外国人のジャーナリストが拘束されることもあります。また、神（宗教）に関する考え方の違いで戦争が起きることもあります。日本国内においては、子供に対する心理的・身体的・性的暴力が起きている現状があります。

暴力は、どんな場面でも、いかなる場合でも、あってはなりません。今現在も起きている様々な課題がわかる本です。

シリーズ他2冊あります。

ものがたりから読みとる世界



『ぐるんぱのようちえん』

作：西内ミナミ 絵：堀内誠一

出版社：福音館書店



ぐるんぱは、一人ぼっちで身体が^{からだ}大きく何をしても上手くいかず何度も仕事を変える日々でした。お皿作り、靴^{くつ}屋など…身体が大きなくるんぱは何を作っても大きすぎて「もうけっこう」とクビになっていました。それでも諦めず^{あきら}探し続け自分に合った仕事を見つけました。それは、子どもたちとの出会いをきっかけに幼稚園^{ようちえん}を開くこと。お皿はプールに、靴は滑り台^{くつすべ}に生まれ変わり自信をつけることができました。この本が伝えたいメッセージは「たとえ何度失敗しても諦めずチャレンジすることの大切さ」を教えてくれる絵本です。



『王さまと王さま』

絵と文：リンダ・ハーン／スターン・
ナイランド

訳：アンドレア・ゲルマー／眞野 豊

出版社：ポット出版



国を治めることにあきあきした女王さまが、王子さまを結婚させて王様にしよう、と決めたところからお話は始まります。色々な国のお姫さまが城を訪れ、オペラを披露^{ひろう}したり、手品^{てじな}をしたりしました。しかし、どんなお姫さまが来ても王子さまにはしっくり来ません。

女王さまと王子さまがどうしたらいいかわからなくなった頃、ついに王子さまの胸^{むね}がドキドキとときめく相手が現れました。「なんてすてきな王子さま」マデリーフ姫のお兄さま、ハーリック王子にひとめぼれをしたのです。

「結婚おめでとう」2人の王子さまはみんなに祝福され、2人の王さまになりました。王子さまとお姫さまの物語でなく、王子さまと王子さまが結ばれるお話があっていい。お互い好きになった2人が、みんなに祝福されて結婚する、LGBT（レズビアン・ゲイ・バイセクシャル・トランスジェンダー）をテーマにした絵本です。

文京区男女平等センターの資料コーナーには、生まれついた性別だけで生き方が制限されない、「だれもが生きやすい社会」に何が必要かの気づきになる本が
おいてあります。

子どもでも、大人にとっても読みやすく考えさせられる
本です。ぜひものがたりの世界をのぞいてみて下さい。

絵本



『せかいでさいしょに ズボンをはいた女の子』

作：キース・ネグレー

訳：石井睦美

出版社：光村教育図書



「おかし おかし（といっても、うんとおかしじゃなくて、ちょっとおかし）、女の子はズボンをはいちゃいけなかった。そんなことって、かんがえられる？」

メアリー・エドワーズ・ウォーカーは、小さな頃からこんな疑問^{ぎもん}を持っていました。メアリーは、「男の子のふくをきているんじゃないわ。わたしはわたしのふくをきているのよ！」と言いました。おかしいと思うことをまっすぐに相手に伝える勇気^{おどろ}に驚かされます。



『みずをくむプリンセス』

文：スーザン・ヴァーデ

絵：ピーター・H・レイノルズ

訳：さくまゆみこ

出版社：さ・え・ら書房



みなさんは、いつも普通^{ふつう}に飲める「水」について、何かを考えたことはありますか？
水道^{じやぐち}の蛇口をひねると水が出てきて、お皿を洗ったり、ゆったりお風呂に入ったり、洗濯^{せんたく}機が回って洗濯^きをしたり。そのまま飲むのはもちろん、料理にだって欠かせません。あそくだ、トイレで用を足したあとも水を流しますよね。

人間は水がないと生きていけません。

その人間の命^{いのち}にとって大事な水が、少ししか手に入らない人がいる国のお話です。

朝起きたら水がめ^{あたま}を頭に乘せてお母さんと長い時間をかけて水をくみに行く主人公
ジージー。到着した川でくむ水は、泥^{どろ}でにごっていて、そのままでは飲めません。重
たくなった水がめをまた頭に乘せて長い時間をかけて家に帰って、わかして、からか
らに乾いたからだでようやく飲める大切な「水」。これは作り話ではなく、世界の人
口の6人に1人は、たった今も、そんな暮らし^{くらし}をしていることを知ってほしいです。

ジェンダー バイアス フリー

～性別による役割分担にとらわれず生きられる社会～

01



『きみはどう考える？
人権ってなんだろう？』

喜多明人監修
汐文社

大人も子どもも、好きなもの、嫌いなものがそれぞれあって、どんな考えをもっているかもちがいます。わたしたちは、だれでも、自分の本当の気持ちをがまんしないで、自分の気持ちを大切にできる、守られる権利があります。

着るものや持ちものを自分で選べないとどんな気持ちになる？といった「考えてみよう！」という自分で考えるためのヒントが、この本の中にはたくさんあります。巻末には、相談できる場所やいろいろな本の紹介がのっています。

02



『こどもジェンダー』

シオリーヌ（大貫詩織）著
ワニブックス

「わたしね スカートってなんかすきじゃない フリフリの ようふくも なんか きたくない」この本では、「こう伝えてみるのはどうかな？」とこまったときにたすけてくれる言葉がたくさん書かれています。

本をかいたシオリーヌさんは、「なにかを「イヤなんだ」って いうとき、りゆうが わからなくても ひとに つたえていいんだよ」と言っています。言葉にできないこともあるかもしれない。でもわかってくれる人をあきらめずに探して、伝えようとがんばってみてほしいと思います。

03



『リキシャ☆ガール』

ミタリ・パーキンス著
鈴木出版

リキシャとは、人々が移動するときに乗る乗り物で、運転手が自転車をこぎ、お客さんをのせる車をひっぱります。絵をかくことが得意な10さいの女の子、ナイマは、働きづめのお父さんに少しでも楽をさせてあげたくて、リキシャを試しにひっぱってみますが、うまく動かせずに傷つけてしまいます。

バングラデシュでは、働くのは男だという考えがある中、ナイマは自分にもお金をかせげる方法がないか、と知恵を絞ります。ナイマの計画は、はたしてうまくいくのでしょうか。

小学生からよみたい本



04



『女の子だから、男の子だからをなくす本』

ユン・ウンジュ著
エトセトラブックス

生まれたときの性別、男か女かによって役わりや行動を決められてしまうこと、そのような考え方を「ジェンダー」といいます。たとえば、おもちゃには、女の子用と男の子用があります。「女の子は、ままごととして、人形で遊ばなきゃ」「男の子は、銃^{じゅう}で遊んで、サッカーをしなきゃ」

知らないうちに、性別でわけることに子どもたちからなれてしまうのです。男と女のちがいでではなく、みんなそれぞれにちがいがあるのです。

05



『赤毛証明』

光丘真理著
くもん出版

中学一年生のメグは、ある朝、生徒手帳に「赤毛証明^{あかげしょうめい}」の赤いゴム印をおされました。赤毛が生まれつきだということを学校に証明するため、毎朝校門でその印を先生に見せなければいけないのです。

メグは「自分はふつうじゃないの？赤毛であることはすでに証明されているのに、どうして毎回印を見せる必要があるの？意味のない規則も守らないといけないの？」と考え、大人へ意見をぶつけます。親友のサワちゃん、幼なじみの紘^{なや}といったまわりの人たちもとても魅力的です。

06



『変化球男子』

M・G・ヘネシー著
鈴木出版

シェーンは、ロサンゼルスの中芸に通う男子。野球に熱中し、気の合う親友もいて、ひそかに思いをよせている女子ともうまくいきそうで…。充実した毎日を送っているようにみえたシェーンにも、大きな悩み^{なや}がありました。

体は女として生まれたのですが、心と脳はずっと男です。ある時、敵チームの選手に、女子だった昔の頃の写真をメールで他の人に送られてしまいます。見知らぬものへの不安から攻撃^{こうげき}する人、立ち向かうシェーン。その姿には勇気をもらえます。



ジェンダー バイアス フリー

～性別による役割分担にとらわれず生きられる社会～

01



『子どもを守る言葉
『同意』って何？』
レイチェル・ブライアン著
集英社

自分のことは自分で決める！これは、自分のことが一番大切で、他の人より優先すべき、という意味ではありません。この本では、自分がどう思っているのかを相手に話し、相手の気持ちや考えにも耳をかたむけて、お互いが確認しあうことを「同意する」「同意をもらう」と説明しています。

これは、お互いが「同意」の考え方を理解していることが大事。いろんな人といっしょに話し合ってみてほしい1冊です。

02



『女の子はどう生きるか
教えて、上野先生！』
上野千鶴子著
岩波書店

「男らしくしてなきゃダメですか？」「専業主婦に憧れます！」など、女の子たちのいろいろな質問に、上野千鶴子先生がていねいに答えていきます。

2019年度東京大学 入学式祝辞のスピーチから上野先生の名前を知った人もいるかもしれません。本書にもスピーチ全文がのっています。女の子はどう生きるか？今の日本の社会はどんな状況なのか？女の子たちの疑問の答えをさぐっていくうちに、見えてくる新しい世界があるかもしれません。

03



『北欧に学ぶ小さな
フェミニストの本』
サッサ・ブーレグレン著
岩崎書店

「世の中の大事なことを決めるのは、どうしてスーツ姿のおじさんばかりなの？」

10歳の女の子エッバは、新聞の写真を見て、こんな気づきを持ちます。不平等に気がつくのは、立派な第一歩。仲間と共にこれまで不平等について、女の人たちはどう戦ってきたのかを調べ、どうやって変えたらいいのかを考えて行動に移します。自分の考えを伝えること、そして人の考えも聞くこと、お互いを思いやる気持ちが大切だと気づかされます。

中学生からよみたい本

04



『男子が10代のうちに
考えておきたいこと』

田中俊之著
岩波書店

「男の子だから泣かないの。」涙は弱さの象徴であり、たくましさや勇ましさを発揮できる男性は、「男らしい」。小さいころから、男らしさが求められ、それが自然なことだと思う男性は、自分の心の痛みや苦しみを涙で表すことは難しくなってしまいます。

男子のみなさんが、「男」という縛りにふり回されることなく、自分の中にあるたくさんの多様性に目を向けてほしい。著者のそんなやさしいメッセージと力強いエールが伝わってきます。

05



『その魔球に、まだ名はない』

エレン・クレイジス著
あすなろ書房

1957年アメリカで、ゴードンは優秀なピッチャーとしての才能を見込まれ、リトルリーグにスカウトされました。しかし、同級生の密告により、ルール違反と告げられてしまいます。

それは…「女子は対象外とする」というものでした。ゴードンは、この規定に納得できず、野球はずっと男子専用のスポーツだったのか、本当に女子野球選手はいなかったのかを調べてレポートにまとめます。

何か壁にぶつかった時に、ゴードンのように自分の考えを伝える努力をすることで、小さな変化を生み出すことができるかもしれません。

06



『パンツ・プロジェクト』

キャット・クラーク著
あすなろ書房

女子はスカート、男子はズボン。中学一年生のリヴは、どうしてもスカートををはきたくありませんでした。「こんな毎日耐えられない！」なぜ自分の好きな服を着てはいけないのか。疑問を感じたリヴは、校則と闘うことを決意します。その名は「パンツ・プロジェクト」。

親友に裏切られたり、クラスメイトに意地悪されたりと^{ぜんとなん}前途多難だったけれど、自分のあるがままの姿を受け入れてくれる、ジェイコブという大切な友だちができ、リヴの力となります。最後にリヴの考えた計画とは…？

男女平等参画に関する区民調査を実施しました

性別にかかわらず、全ての人が互いの人権を尊重し、いきいきと暮らせる社会を実現するため、昨年度に実施した「文京区男女平等参画に関する区民調査」から、主な結果をご紹介します。

調査の概要

調査対象：満18歳以上の区内在住者2,500人（住民基本台帳から無作為抽出） 回答数：1,031件（回収率41.2%）

調査期間：令和2年9月4日（金）から9月23日（水）まで

調査方法：【配布】郵送【回収】郵送又は回答用ウェブサイト

※詳細は右のQRコードから区のホームページでご確認ください。

お問合せ：文京区総務部総務課ダイバーシティ推進担当

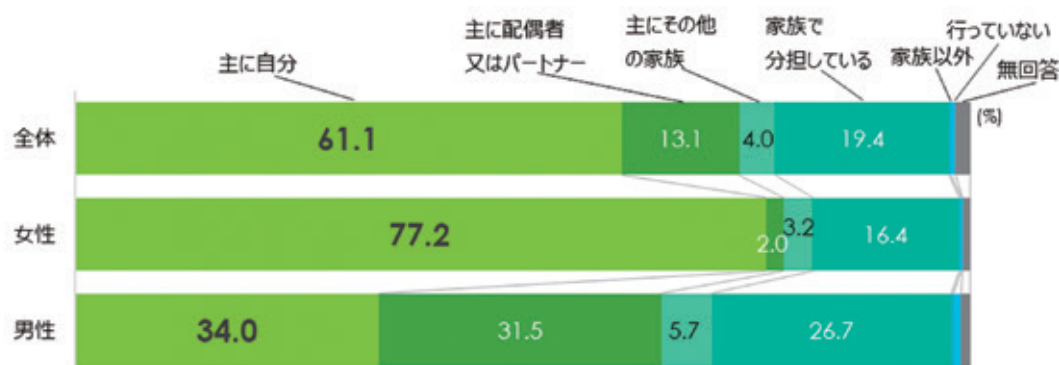
☎03-5803-1187 FAX 03-5803-1331



家庭における役割分担

77.2%の女性が、炊事・洗濯・掃除などの家事を「主に自分が行っている」と回答しています。一方で、「主に自分が行っている」と回答した男性の割合は34.0%にとどまっています。

Q. あなたの家庭では、炊事・洗濯・掃除などの家事を、主にどなたが行っていますか。

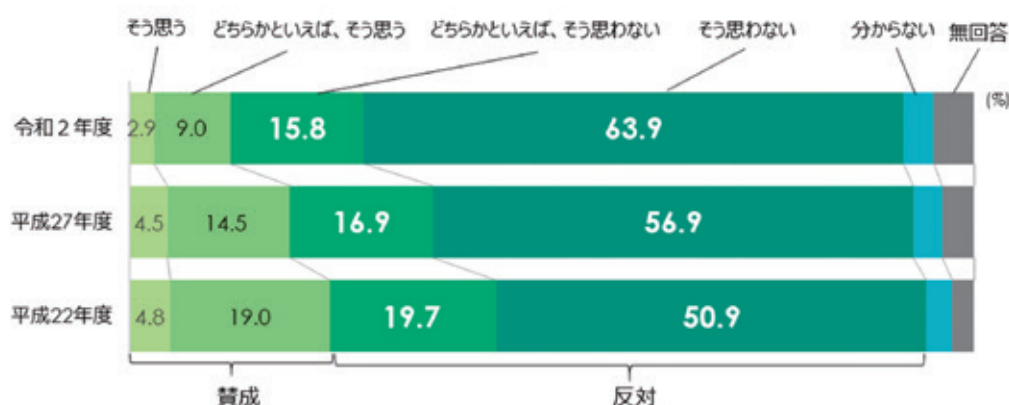


性別役割に対する考え方

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、「反対（「どちらかといえば、そう思わない」と「そう思わない」の合計）」と回答した割合は79.7%となっています。「反対」の割合は年々増加しています。

また、全国調査¹では「反対」と回答した割合は59.8%であり、文京区が19.9ポイント上回りました。

Q. 「男は仕事、女は家庭」という考え方に共感しますか。



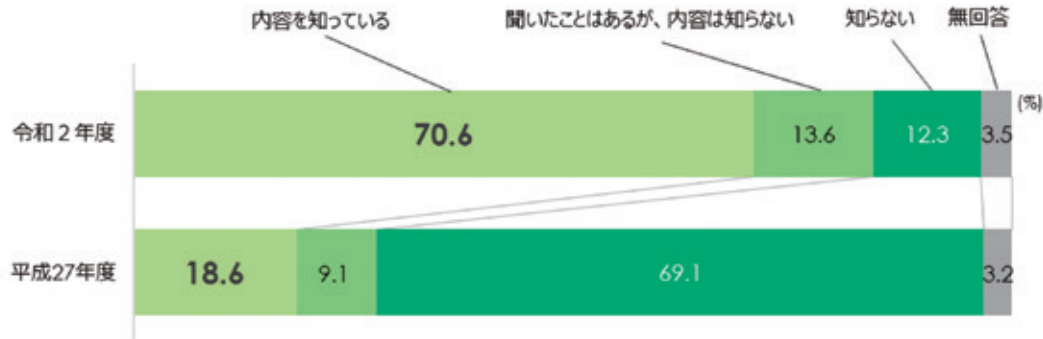
1 内閣府「男女共同参画に関する世論調査」（令和元年9月実施）

SOGI（性自認及び性的指向）

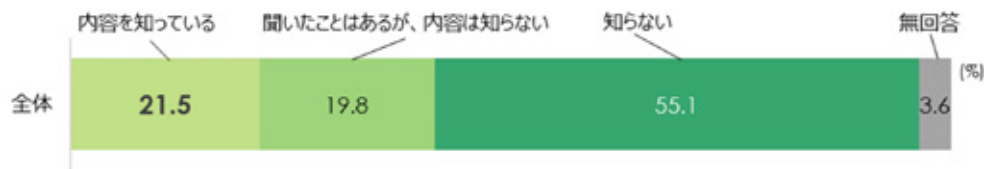
「LGBT（性的マイノリティ）」という用語について、「内容を知っている」と回答した人の割合は、平成27年度の調査から52.0ポイント上回り、70.6%となりました。一方で、「SOGI（性的指向・性自認）」という言葉について「内容を知っている」人は21.5%にとどまりました。



Q. 「LGBT（性的マイノリティ）」という言葉を見たり聞いたりしたことがありますか。



Q. 「SOGI（性的指向・性自認）」という言葉を見たり聞いたりしたことがありますか。



今回いただいた貴重なご意見を、「文京区男女平等参画推進計画」の改定や、今後の区の男女平等参画施策の推進に活かしてまいります。

SOGIに関する区民向けリーフレットを作成しました

多様な性について区民の皆様により広く知っていただくため、令和3年3月にリーフレットを発行しました。リーフレットは、男女平等センターをはじめ、区内各施設で配布しています。また、区ホームページでデータを公開しています。ぜひご覧ください。

区ホームページはこちら▶



また、合わせて、平成29年3月に文京区職員・教職員向けに作成した「性自認及び性的指向に関する対応指針」を改定しました。この指針に基づき、区職員、教職員及び指定管理者や契約事業者等の関係者に対し、多様な性への理解促進に取り組んでまいります。

「SOGI」ってなに？

文京区

「SOGI」って何？
～性のあり方は人それぞれ～

一般的に「性」は、「男」と「女」の2つで考えられがちですが、実際の性のあり方は多様で、人それぞれ違います。性のあり方（セクシュアリティ）は、主に4つの要素の組合せで成り立っていると考えられます。

出生登録時の性 戸籍や住民票に記載されている性別 好きな性（性的指向） 恋愛感情や性的な関心が主にどの性別に向いている（いない）か	心の性（性自認） 自分がどの性別である（ない）と思うか 性表現 服装や言葉遣い等で表現する性
---	--

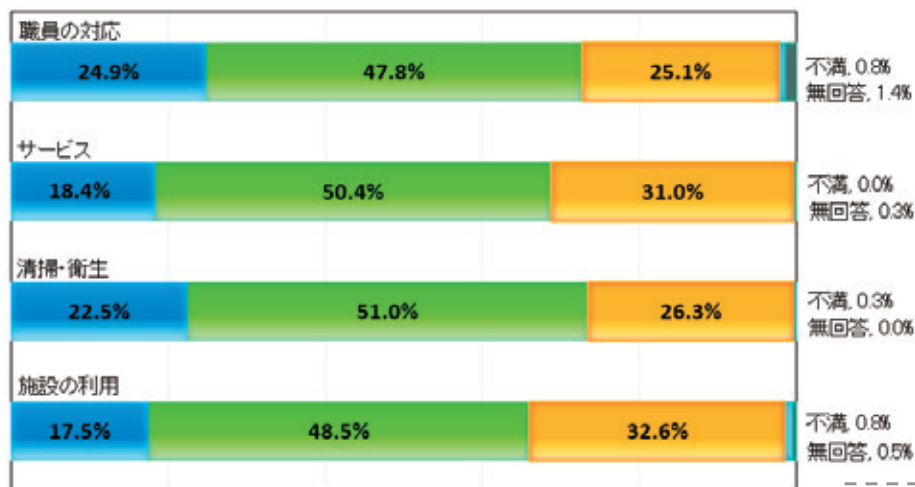
このうち、「性的指向（Sexual Orientation）」と「性自認（Gender Identity）」のアルファベットの頭文字をとって「SOGI（ソジ）」といいます。

- **好きな性…性的指向 Sexual Orientation**
恋愛感情や性的な関心が主にどの性別に向いているか／いないか、ということ。好きな対象は異性だけでなく、同性の関心や恋愛感情自体を抱かない人もいます。
- **心の性…性自認 Gender Identity**
自分がどの性別である／ないと思っているか、ということ。この感覚は、生まれたときに登録された性別と同じとは限りません。

すべての人にそれぞれの「SOGI」があります。これは「男」「女」と明確に分けられるものではなく、グラデーションです。また、自由に選んだり、変えたりできるものではありません。

令和2年度 利用者アンケート

令和3年2月8日～3月31日実施
センター登録団体168団体+センターを利用した79団体
(登録団体含む) 回収枚数365枚



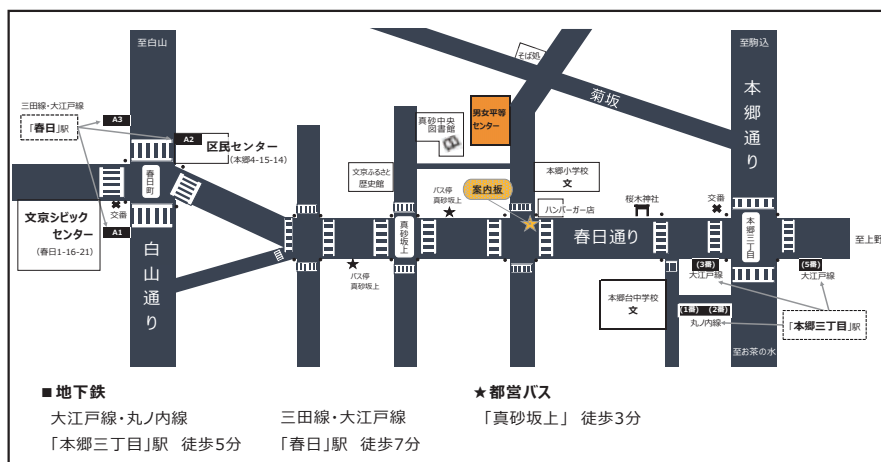
0% 100%

■とても満足 ■満足 ■普通 ■不満 ■とても不満 ■無回答

施設等へのご意見

- ・実習室を改善して欲しい
- ・屋内の照明が全体的に暗く感じる
- ・トイレが狭い
- ・ペットボトルのふたの回収が良いです
- ・トイレがきれいであり良い

※各グラフの割合は表示単位未満を四捨五入しており、合計が100%にならない場合があります。



編集後記

人は、1冊の本に触れ、人生観が変わることがあります。良い本との出会いは、人生の宝です。男女‘不’平等な状態を、おかしいな、と感じられなくなってしまう根っこは「幼少期からの刷り込み」にあると、弊誌96号の調査でわかってきました。文京区男女平等センター資料コーナーでは今後、子どもに読める本も充実させ、そこから子どもたちにも深く考えるきっかけ作りを提案していきたいと考えています。そしてみなさんがどんな本から、どういう感想を抱いたのか、いつか聞かせて欲しいと思っています。

(大内)

2021年7月30日 発行 文京区女性団体連絡会会長 千代和子

編集担当 広報部 大内悦子・近麻希子・菅原雅子・面来美保

〒113-0033 文京区本郷4丁目8番3号 Tel.03-3814-6159 Fax.03-5689-4534

文京区男女平等センターは文京区女性団体連絡会が指定管理者として管理・運営しています。